



にゅーすれたーふじやま・長泉 スポーツでつながる！！



2011. 6

パナソニックエイジフリー介護チェーン

大学卒業後3年働いた会社を辞め、夢に挑戦する次男の住む徳島へ行ってきました。四国には四国アイランドリーグという球団があります(下記の図参考)。社会人野球チームの減少で活躍の場を失った若者にチャレンジの場を提供する球団です。プロ野球チーム出身の監督・コーチが質の高い指導を行っています。しかし経営はあまり楽ではなく、存続の危機ともいえる状態の中にあえて身を投じたわが子にエールを送ります。今年は代表も変わりました。弁護士の代表はマイクを持ってカッコいい役を演じていますが、息子は試合中にグッズの販売を受け持ったり、ファンへのサービスも欠かせません。縁の下の力持ちといったところでしょうか。。。息子の夢への挑戦の思いがひしひしと伝わります。私たちはナイターを観戦しました。息子はちょっと挨拶に来ただけで一緒に食事できません。しかし彼の顔色は久留米、大阪でサラリーマンをしていた時には見せたことのない明るい表情でした。後片付けやら売上の集計などをしてアパートに戻るの12時を過ぎてしまうそうです。試合のない日は営業です。私たちも徳島市の東新町商店街に行き、彼の話をもじりに聞いてくださる福田さん原田さん平岡さんに会ってきました。息子のことを可愛がってくれている様子が私たちを迎えてくださる態度ではっきりわかりました。どちらかというときシャイで一人でのびのびと息子が小学校～高校まで野球部でチームワークの大切さとチームにあって今、自分は何をすべきか学んだようです。監督には心から感謝しています。

2011年、徳島インディゴソックスは、つながります。

「つながる。」

皆様と、つながります。



第2回おやじバンドフェス@三日市浅間さん
7月17日(日)12:00~20:00
バンド演奏15:00~19:00



せっかく四国に来たので鳴門の渦潮、大塚国際美術館、徳島の藍染め記念館などを見学しました。中でも陶板で作られた世界の名画や壁絵を展示してある大塚国際美術館の素晴らしさには目を見張るものがありました。いつか本物の教会を訪れてみようと思います。

長いエスカレーターを上がると正面脇には初代館長大塚正士氏の“徳島県に貢献する一握りの「白砂」”の苦労話の一説が書かれていました。私も陶板の美術作品は少し持っていますが、鳴門の白砂で作った大塚の陶板は歪みもなく高度な製造技術があるようです。事の始まりは砂で販売するのではなくタイルにして付加価値を付けて販売すれば徳島県のためにもなるし、大塚のためにもなるとの思いからだったようです。西洋の名画のみを集めた陶板製の絵は1000年2000年経っても色の変化はないので、ずっと社会に貢献していけると大塚正士氏は書いています。長い上下のエスカレーターの間にはやはり長い階段があり、そこにはご覧のような手すりが付いていました。職業柄大変気になります。使い勝手はどんなだろうかと思いましたが、残念ながら階段の昇降については使用できない状態にしてあったようです。



帰路、瀬戸内海を眼下に見ながら鳴門大橋を渡っているとなぜかロマンティックな気持ちになりました。瀬戸の哀愁を感じたというか息子を残す母心というか。。。。。。気がつけば瀬戸の花嫁を口ずさんでいました。渡邊啓視